



八学野西 2 0 0 0 0 0 | 2
 東 義 2 4 2 0 1 3 x | 12

(6回コールド)

(八) 立花、塩倉一木村

(東) 角田、坪田一後藤

▷三塁打 角田(東) ▷二塁打 木村(八)

中田歩、角田(東)

▷試合時間 1時間49分

(球審=石田、塁審=金、市沢、立花)

【評】東義打線が13安打12点と圧倒した。二回は中軸の3連打など打者8人で4得点。三回にも角田の中越え三塁打などで2点を追加し、その後も攻撃の手を緩めなかった。八学野西は初回到連続適時打で先手を奪ったが、二回以降は投手陣が攻略された。

野西投手陣12失点 先制ならず

○…八学野西は投手陣が強打の東義打線に攻略され、六回コールドで完敗。9安打9失点で五回途中降板した先発の立花歩夢は「三振を狙い過ぎた。もっとバックを信じてコースに投げ分けるべきだった」と反省した。

ことごとく打ち返されたのはスライダー。狙い球を絞られていたことに、女房役の木村祐斗は「自分の配球ミス。もっと早めに気付いて指示を出せていれば…」と悔やんだ。

ただ、立花は自身の直球には「捉えられることはなかった。詰まらせたり、ファウルを打たせたりすることができた」と手応えをつかんだ様子。「夏までに変化球に磨きをかけ、リベンジしたい」と前を向いた。

【八学野西―東義】初回八学野西2死一、二塁、木村祐斗が右翼線に適時打。二塁打を放ち、2―0とする。八学東